

支 部 長 換 拶

日本気象学会北海道支部の第19期(平成6-7年度)の理事および支部長をお、せつかりました。微力ではありますが誠心誠意任期を全うする所存です。

日本気象学会は会員数4000名、予算規模1億円余の地球物理学関連学会としては最大の規模になりました。平成5年7月の2週間念願だったIAMAP・IAHS '93(1993年国際気象学大気物理学協会・国際陸水科学協会)の一大イベントが横浜で盛会裡に終わりました。一方、北海道支部の昨年度の活動状況を紹介しておきますと、6月に総会と第1回研究発表会を北大で、12月に第2回研究発表会を气象台で開催しました。7月には第11回目の夏季大学「新しい気象」を、11月11日には札幌で気象講演会「札幌の冬の気象-冬に備えて賢くなろう-」を行いました。また特別講演会は5月から7月にかけて、カナダ・トロント大学の Moore 教授、カナダ気象局の Stewart 博士、ドイツ GKSS の Raschke 教授を迎えて行うことができました。北海道支部の会員数は256名と小世帯ながら積極的に活動を続けている支部だと思えます。今年度から来年度にかけては、北大大学院理学研究科地球物理学専攻の地球惑星科学専攻への組織替、また地球環境科学研究科への大気海洋圏環境科学専攻の新設等により、大学院学生の定員増に伴う僅かながらとはいえ会員数増が見込まれます。



日本人ほど気象、気候を話題にする国民はいないのではないかと思います。昨年の冷夏を思い出すと今夏はどうなるかと予報が気になりますが、一人でも多くの方が大気現象に興味を持ち、更に学会員になって下さるよう気象講演会(地方講演会)や夏季大学を通して啓蒙したいと思っております。

皆様方の御協力をお願いする次第です。

日本気象学会北海道支部
支部長 菊地 勝弘
(北大理学部教授)